
令和6年度 第2回（午後）（グローバル・2科目共通）

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和6年2月2日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生どうしの貸し借りもできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. スマートフォンは、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子の印刷が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は23ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の——線部のカタカナを漢字になおし、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 誰もいなくなった教室の電気をシヨウトウする。
- ② テンランカイに自分の絵画が飾られた。
- ③ 競争バイリツを見ると驚くほど高かった。
- ④ 神奈川県のチヨスイ施設を見学した。
- ⑤ 例年正月には父のコキヨウに帰省する。
- ⑥ アレルギーはイデンの可能性もある。
- ⑦ 秋田新幹線のシャソウからの眺めに心を奪われる。
- ⑧ 提出のしめ切りをゲンシユしてください。
- ⑨ 飛行機を操縦したいという夢がある。
- ⑩ 毎年私の家に巣を作るツバメは益鳥の代表だ。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

小説の取材で、外国を旅します。観光ではなく、小説の舞台になる場所の空気を吸い、そこで暮らす人と接するのが目的です。可能な限り多くの人と会い、話を聞くために、私は何度も中国へ行きました。

コロナ禍が広がる前までは、多くの中国人が日本に来ていました。また、大勢の留学生も日本で学んでいましたね。

①彼らと接して、違和感を覚えたことはありませんか。

私は、四〇歳代で初めて中国を訪れました。

日本の隣国で、そのつきあいは紀元前にまでさかのぼれます。生活様式、紙や漢字など多くを中国から学びました。中国文明がなければ、現在の日本は成立していません。

そのせいか、私は中国人と日本人は「よく似ているに違いない」と思い込んでいました。

A、いざ中国を訪れて多くの人から話を聞いている間、ずっとかみ合わない気がして仕方ありませんでした。

明らかに価値観が違う。人生の優先順位も違う。似ているのは容姿ぐらいで、あとは全部違う気がしたほどです。

B、こんなエピソードがあります。

ある街で白っぽいキクラゲを黒く塗って「黒いキクラゲ」として売って大もうけした男が詐欺で捕まりました。薬効があると言われる黒いキクラゲは、昔から高級品です。

②このニュースを知った多くの中国人は、「そんな簡単なことで高く売ったやつはすごいな」と感心しました。

詐欺を働いた悪人じゃないか、と言うと、「だまされるやつが悪いんだよ。そのアイデアを考えたやつはすごい」と至極当然のように返されました。

中国人の多くは、だますやつは「賢い」、だまされるやつは「バカ」と考えているらしいのです。

この話には、かなり誇張があるでしょう。でも、詐欺にあったとき、だまされたほうが悪いという考え方は、中国人だけではなく欧米人からも聞いたことがあります。

これは価値観の違いで、どっちが正しいという話ではないわけです。

日本では、会社に就職したら、そこに溶け込み頑張ろうとします。会社は家族のような存在で、できれば長く勤めたいと考えます。

ところが、中国の場合、複数の仕事を掛け持ちするのが「当たり前」です。

中国人に理由を尋ねると、「自分の人生を一つのものに投じるのは危険でしょ。いろんな方法でお金を稼ぐのが賢い生き方」とあっさり返されます。

中国の日系企業で働いていた社員が、日本人上司との関係は良好でボーナスも弾んでもらったのに、その直後に辞めてしまった、ということがありました。会社と合わなかったわけではありません。他のもっと稼げる仕事で時間が必要になったから、というのが理由です。

③ 日本人なら「恩知らず」と思うかもしれませんが、中国では「それは良かったね」と褒められますし、雇い主も気にしません。

私の経験では、中国人は家族や仲間を大切にしますが、そうでない人に対してはかなりドライです。また、政治の話をするとき、圧倒的な自己正当性を主張します。世界で一番強く正しいのは中国だと、ごく普通の人が当たり前になります。

その一方で、日本を激しく憎悪している人は意外に少ない。そもそも両国は比べる対象じゃないと言う人もいます。何でも他国と比べて自分たちのポジションを気にする日本とは、根っから意識が違います。

取材をすればするほど、私の中で違和感は強くなっていきました。最初は取材方法に問題があるのかと思ったのですが、それでもありません。

相手は腹を割ってホンネを話しているようだし、信頼関係が築かれているという手応えもありました。なのに、わかり合えない感じは強まるばかり……。

④ こういう袋小路に追い詰められたら、私は一度、頭の中をリセットします。

自分の先入観が邪魔をしているんじゃないか。

かつて日本が中国文明の申し子だったのは事実だが、だからといって今もわかり合える保証はない。容貌が似ているのもいつたん忘れて、先入観をゼロにしてみよう。

C、中国人がある国の人に似ていることに気づいたのです。驚くかもしれませんが、アメリカ人です。いやいや、アメリカは西洋社会だし、歴史も文化も違うじゃないか。それに中国とアメリカは仲が悪いでしょ。はいはい、その通り。

しかし、です。やけに他人に馴れ馴れしいところ、明るいところはそっくり。さらに、政治の話になると高飛車になり、いずれも世界の中心は自国の首都だと信じている（こういう考え方を中華思想といいます）。他国にはあまり興味がなく、常に自分たちは絶対正しく良い国だと胸を張っています。

ほら、そっくりじゃないですか。

そう気づいた日から、彼らをアメリカ人だと思って接してみました。

すると、不思議なことに、今まで理解できなかったこと、我慢できなかったことが、すべて腑に落ちたんです。

そして、「日本人と中国人には、どうしてもわかり合えないことがある」と割り切った瞬間、中国人像がくつきりと見えてきました。

⑤ 彼らの思考が「理解」できるようになったのです。

他人を理解したいとき、共通項を探すことから入ると、親しみが湧くし、相手の理解も早い。

私はたいいていそういう姿勢で初対面の人に接しますが、相手の素顔がなかなか見えてこない場合もあります。

一見同じだと思っていたのに実は根幹で違ったと気づいたときの衝撃ときたら、もうお手上げですね。

そんなときは、とにかくその違いをすべて受け入れることです。

「この人とは根本的にはわかり合えない」と納得すれば、そこから先は相手のことが「とてもよくわかる」ようになります。

なぜなら、根本的な価値観が違うから、その人の言動に共感できるわけがないという構えができるからです。

また、そういう発想をする人なら、こんな説明を受け入れてくれるかもしれないというアプローチ法も浮かびます。相手を説得しようとしても無駄だから、双方は別物という前提で可能なことを考える。

この発想は、「不本意だけど相手の『正しい』に同調する」とはずいぶん違うでしょう。

⑥ コミュニケーションとは、こういうものなんです。相手の話をしっかり聞いて、この人は自分と根本的に異なる哲学を持っていると知ることができたら、『正しい』を押しつけ合うなんて無益なことはずせにすみます。

相手を知るために話を聞き、自分が感じたことを相手にぶつけて、納得のいく関係を築きましょう。

人の話を聞くと、もう一つ大切なものを手に入れることができます。

それは、「自分自身の考え」です。

そんなバカな、と思わないでください。

自分の考えというのは、もともとはあいまいなものです。いろんな経験をしたり、人とあれこれ話したりすることで、徐々に形になっていきます。

あるテーマで他人の意見を聞き、それを「自分語」に翻訳しつつ、心の声に耳を澄ます。

その通り！

それは違うな！

そういう繰り返して、漠然としていた自分の考えに目鼻がついてくるのです。

最初は意見が異なっていたのに、話を聞いているうちに同調することだってあります。本当に納得できるのであれば、それもいい。

いずれにしても、コミュニケーションをしっかりと行っていけば、自分の考えが鮮明になります。鮮明になっていないような

ら、まだまだコミュニケーション不足だということかもしれません。

でも、相手がどういう人なのかは、できるだけ早く知りたいものです。なので、話をしている何かひらめくと、「そうか、この人はこういう人だな！」と決めつけがちです。

でも、よくよく相手と話をしても、理解できたのは、まだほんの一部です。

だから、間違っても「キミがどういう人かわかった」などと言わないように。たとえ友人であっても、そんなふうにとめられたら嫌いやでしょ。

そんな簡単にわかられてたまるか！ と言いたくなるでしょ。

だから、物事も人も簡単に決めつけない。⑦ それは、あなたの脳内で弾けた“正しい”を疑う理由でもあります。

(真山仁『“正しい”を疑え！』より)

問1 本文中の空らん A C に入る語として、最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えな

さい。同じ記号は一度しか使えません。

ア さて イ すると ウ たとえば エ ところが オ ようするに

問2 — 線部①「彼らと接して、違和感を覚えたことはありませんか」とありますが、この「違和感」とはどのようなもので

すか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分と似ていると思つて接していても、価値観や人生の優先順位などの違いが原因となつて隔たりが感じられるような、わかり合えるようであり合えない感覚。

イ 自分と似ていると思つて接するのは日本人の側だけで、中国人はとなりの国であっても他国に心を開くことはなく、表面的なつきあいしか得られないと困惑する感覚。

ウ 中国人は表面的には日本人と似ているようによそおつて暮らしているが、内面的には価値観や人生の優先順位をかたくなに変えようとしない頑固な部分があることにとまどう感覚。

エ 中国人はいつも明るくて親しみやすさがある反面、価値観や人生の優先順位は複雑でとらえようがないために、どうつきあうべきかが全くわからずに混乱する感覚。

問3

— 線部②「このニュースを知つた多くの中国人は、『そんな簡単なことで高く売つたやつはすごいな』と感心しました」とありますが、ここには中国人のどのような考えがあらわれていますか。三十字以上四十字以内で説明しなさい。句読点などの記号も字数にふくめます。

問4 —線部③「日本人なら『恩知らず』と思うかもしれせん」とありますが、どうしてこのように「思う」のですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 会社は家族のようなもので、就職したら会社に溶け込み長く勤めようとする日本の常識に反して、短い期間しか勤めずに、良好な関係を築こうともせず、ボーナスだけを受け取って条件の良い会社へ乗り換えてしまったから。

イ せっかく会社に就職しているのにその会社には合わないといって、複数の会社を掛け持ちして働き、短期間でボーナスをもらっておきながら、さらにボーナスを求めて他の会社に転職してしまっただから。

ウ 会社内での上司との関係も良好でボーナスも弾んでもらったのに、その待遇に感謝して期待に応えることをせずに、ボーナスを受け取った直後に他の仕事をするために会社を辞めてしまったから。

エ 自分の人生を一つの会社に投じるのは危険だと考え、他の会社を探し続けて、労働時間がとても短くもつと稼げる仕事を見つけてきて、ボーナスをもらった直後にもかかわらず会社を辞めてしまったから。

問5 —線部④「こういう袋小路に追い詰められたら」とありますが、これはどのような状態になっているのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手の意識を理解するために取材をしているのに、いくら取材をしても自己正当性を圧倒的に主張されるだけで、まともな意見が聞けるようにはならず、絶望している状態。

イ 好意を持って取材に受け答えしてくれる相手を、自分の間違った先入観で理解しようとしていたことを深く反省し、相手の「正しい」に同調しようと覚悟を決めている状態。

ウ 取材を通じてお互いに信頼関係が築けているという手応えもあったのだが、根っから意識が違うので、相手にあまり興味を持ってもらえていないことがわかり、落胆している状態。

エ 取材を通じての相手とのやりとりの中に違和感があるが、どのように解消すればよいのかはつきりしないまま、わかり合えなさが強まって行き詰まりを感じる状態。

問6 — 線部⑤ 「彼らの思考が『理解』できるようになったのです」とありますが、どうして理解できるようになったのですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 中国人は日本人にはなくてアメリカ人にそっくりだと認識し、日本人とはわかり合えないことがあると割り切ることで、自分の思い込みから離れて中国人と接することができるようになったから。

イ 中国人が他国に関心がなく、自国だけが正しいと信じていることからアメリカ人とそっくりであることに気づき、アメリカ人向けの交渉術で相手を説得すればよいことがわかったから。

ウ 日本人と中国人にはわかり合えないことがあると思つて割り切つて接することで、双方は別物であるという根本的な違いがお互いにわかり合え、心が打ち解けて納得のいく関係になれたから。

エ 中国人とアメリカ人はそっくりで日本人とは異なると思つて接し、はじめからわかりあうことをあきらめて深くつきあうことをやめることで、互いに傷つくことがなく良好な人間関係を維持できるようになったから。

問7 — 線部⑥ 「コミュニケーションとは、こういうものなんです」とありますが、筆者の言うコミュニケーションとはどのようなのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手を説得しようとしても無駄であるとして一度は思つても、別の説得可能なアプローチ法を考え、対立する意見が出て

も粘り強く説得を続けることで、相手が考えを変えてくれるまでじっくりと待つもの。

イ 相手とはわかり合えない違いがあることを受け入れ、互いに共感できないことがあるという前提で相手の話をしっかりと聞き、相手が自分と根本的に異なる哲学を持つていることを納得したうえで成り立つもの。

ウ 初対面では相手を知るために話を聞き、理解しようとして共通点を探して親しみや理解を深めるが、相手が自分とは違う価値観を持つことがわかれば、相手を説得するのは他者にゆだねることで、表面的な関係を築くもの。

エ 相手とわかりあうために相手の考えをよく聞き、相手と自分の共通点を探して親しみや共感を深めながらも、自分が感じたことを相手にぶつけて納得のいく関係を築き上げていくもの。

問8 — 線部⑦「それは、あなたの脳内で弾けた『正しい』を疑う理由でもありません」とありますが、『正しい』を疑わない

とどうなってしまうのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手と話をすることは、自分が感じた『正しい』を理解してもらおうために必要なことなのに、その対話をしないとコミ
ユニケーション不足におちいって、相手の考えを一方向的に決めつけてしまう。

イ 相手と腹を割って話をすることで漠然とした自分の考えがはっきりしてくるものなのに、相手と対立することを避けて
安易に相手の『正しい』に同調することで、自分の意見を持たず、相手の言いなりになってしまう。

ウ 相手と対話した中で把握したほんの一部の内容で、相手を決めつけ理解したつもりになり、その時自分の頭の中でひら
めいた『正しい』を相手に押しつけることで相手の反発を招いてしまう。

エ 相手と話をすることによって、最初は意見が異なっている相手が自分に同調してくれることも起こりうるが、自分にと
っての『正しい』だけにこだわって自己主張し続けた結果、周囲から孤立してしまう。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

僕（ぼく）（しょうた）と騎士人・潤・福生は小学校で同じクラスである。騎士人は授業中に缶（かん）ペン（ぶん）（金属でできた筆箱）を落とすことで授業を妨害（ぼうがい）して遊んでいたが、担任の久保先生は形だけの注意しかせず、いたずらが止む（や）ことはなかった。僕と福生はそのことに対してうんざりしていたが、騎士人は、授業参観の日にも缶（かん）ペンを落とす事を計画し、周囲の仲間と実行する。次の文章はその行動に対して担任の久保先生の「わざと缶（かん）ペンを落とす人がいたらどうやって止めさせるべきだろうか」との問いかけで始まる場面である。

「学校で習うことは、教科書やテストのための勉強だけじゃないんだ。それとは違う（ちが）、答えのはっきりしないことについて、学んでほしい。だから、みんなにも考えてほしい。わざと、周りの人に迷惑（めいわく）をかける誰（だれ）かがいたら、どうやって止めさせればいいだろうか」

久保先生はみなを眺（なが）めていたけれど、手を挙げるのを待っているようではなかった。

騎士人をちらと見れば、退屈（たいくつ）そうな顔をしている。

「さっき、お父さんたちが言ってくれたけれど、がっんとやるのも一つの手だね。体罰（たいばつ）と教育の違いは難しいけれど、誰（だ）だって、痛い目に遭（あ）うのは嫌（いや）だろ。だから、次はやらないようになる。痛くしたり、怖（こわ）がらせたり、恥（は）ずかしい目に遭（あ）わせて、教えていく方法もあるのかもしれない。ただ、先生はそれじゃあ、ちゃんと解決（かいげつ）はしないと①思（おも）っているんだ」

暴力はいけないことだから？

「暴力は良くない！」久保先生は言う。「という意味じゃないよ。もちろん、暴力は良くない。ただ、もっと大事な理由は、それじゃあ通用（こうよう）しないことがあるからだ。たとえば、極端（きょくたん）な話をすれば、めちゃくちゃ体が大きい小学生で、先生よりもでかくて、筋肉もあって、先生がいくら思い切り、叩（たた）いても、跳ね返（は）されたらどうする？」

女子の数人が小さく笑った。

「効き **A** はないだろう。先生が叩くことで、言うことを聞かせられるのは、相手が、自分より小さくて、**B** 向かえなくて、弱い場合だけ、つてことになる。先生がいくら怒つても、怖く思わなかったら？ それに、もし先生がみんなを叩いたり、もしくは、恐ろしい言葉と恐ろしい声で叱って、それをやめさせたとしたら、君たちはどう思う？ 将来、自分が大人になった時も、ああやればいいんだな、と思う。だけど大人になって、会社に入って、物事をビンタや怒鳴り声で解決できることなんて、そんなにないんだ。たとえば、さつき、びしつとやってもいい、と言ってくれたお母さんがいましたが」

久保先生は教室の後ろ側を見る。

「もし、その子が取引相手の子供でも、叩くことができます？」先生はすぐに笑う。

「いや、これは、冗談です。ただ、相手によっては、びしつとやれない場合もあるかもしれない。世の中に出たら、通用しないことは多いんだ。で、これは覚えておいてほしいんだけど」

久保先生は難しいことを言っているわけではなく、どちらかと言えば、曖昧な話をしているだけだったけれど、^②僕は少しどきどきしはじめていた。

「相手によって態度を変えることほど、恰好悪いことはない」先生がまた **B** を見せる。

「相手が弱くて、力が通用しそうな時は、ビンタするけれど、相手が屈強だったり、怖い人の子供だったら、ビンタはしない。そんなのは最低だし、危険だ」

危険？ どういう意味なのか。

「弱そうだからって、強気に対応したとするだろ。だけど、後でその相手が、実は力を持っていると分かるかもしれない。動物の世界ならまだしも、人間の、特に現代の社会では、人の持つ力を見た目からは分からないからね。だって、人間の強さは、筋肉や体の大きさだけじゃないんだから。いつか自分の仕事相手になる可能性もあるし、お客さんになることもありえる」

保護者たちは黙っていた。呆れているのか、面倒臭いと思っているのかは分からない。

「みんなに覚えていてほしいことは、人は、ほかの人の関係で生きている、つてことだ。人間関係にとって、重要なことは何だか分かる？」

「お歳暮？」と言ったのは福生だった。

彼は真剣だったのかもしれないけれど、みながどつと笑った。少し、肩やお腹から力が抜けた。緊張していたのだと気づく。「お歳暮、それもひとつ」久保先生がそんな風に軽快に、僕たちに言い返すのも初めて見た。「でも、あいつはいい人に見られなくてお歳暮を贈ってる、とばれたらどうだろう？ 逆効果だよ。そういう意味では、一番重要なのは」先生が指を立てる。「評判だよ」

さつきよりは少ないけれど、また笑い声が出た。

「評判がみんなを助けてくれる。もしくは、邪魔してくる。あいつはいいやつだな。面白いやつだな。怖いやつだな。この間、あんな悪いことをしたな。そういう評判が、大きくなっても関係してくる。もし、缶ペンケースを落とさせているのがわざとだったとして、もしくは、誰かに無理やり缶ペンケースを落とさせるような、自分は **C** を汚さずに誰かにやらせるような、ずるい奴がいたとするだろ」

クラスの何人かは、騎士人のほうに視線をやったはずだ。

「先生にはばれなかったとしても、ほかの同級生はそのことを知っている。だれだれ君は、だれそれさんは、授業中に缶ペンケースを落として授業を邪魔していたな、だれそれ君はずるがしこい奴だったな、と覚えている。いい評判とは言えない」

こんなに活発に、たくさん喋る久保先生が新鮮で、いったい何がどうなっているのか、^③いつもの教室だけれどいつもの教室ではない、そもそも親たちがたくさんいることがおかしいのかもしれない。現実がごちゃまぜになった夢を見ている気持ちになつた。

「みんなは、まわりの人に迷惑をかけるのは良くないと分かっていると思う。迷惑をかけたくない、というの、別に、いい子ちゃんではない、とかそういう理由ではないはずだ。群れで生活してきた人間の習性みたいなものだ。群れの中だと、迷惑をかける人間は、仲間から外されていたはずだから、ほとんどの人間には、まわりに迷惑をかけたくない、という気持ちがある。ただ、中には、わざと迷惑をかけようとしている人もいる。今の人の社会は、群れの中で少しくらい迷惑でも、すぐに仲間外れにはしないからね、もちろんそれはいいことなんだけれど、そういう人は単に甘えているだけとも言える。そういう人に、君たちは困らされるかもしれない。迷惑をかけて面白がる人に君たちが、良くないよ、と言っても、彼らは変わらない。反省もしてくれないことが多い。だから君たちは心の中で、可哀想に、と思っておけばいい。この人は自分では楽しみが見つけれ

い人なんだ、と。人から物を奪^{うば}ったり、人に暴力を振^ふるったり、彼らは結局、自分たちだけで楽しむ方法が思いつかないだけの、可哀想な人間なんだよ。もちろんこのクラスにはそんな人間はいないけれど」久保先生が念を押^おすように言うものだから、可笑^{おか}しかった。「もし、平気で他人に迷惑をかける人がいたら、心の中でそっと思っておくといい。可哀想に、って」

久保先生の言い方がなめらかで、しかも朗^{ほが}らかだったから、何となく明るい話に聞こえたけれど、^④内容自体は意地悪なものだ。僕はまた混乱した。たぶん、ほかのみんなも同じで、もしかすると後ろにいるお父さんたちもそうかもしれない。

「悪いことをすれば法律で罰^{ばつ}せられる。スポーツのルールもそうだ。だけど、その法律やルールブックには載^のっていないこともたくさんある。法律には載らないような、ずるいことや意地悪なこともある。そしてね、人が試^{ため}されることはだいたい、ルールブックに載っていない場面なんだ。先生はそう思う。この間、先生が会った人は、自分が直接関わったわけじゃない出来事について、くよくよ悩^{なや}んでいた。間接的にだけけれど、自分のせいで誰かが傷ついたんじゃないかと苦しんでいたんだ」そう言った時だけ、久保先生の声が湿^{しめ}ったように思えた。「先生はそのことに、大袈裟^{おおげさ}だけれど、少し感動したんだ」

語尾^{ごび}が濁^{にご}り、久保先生が泣いているのではないかと僕は心配になった。

「人間関係^{せま}についての意外に狭^{せま}い。知り合いの知り合いが別の知り合いってこともあるし。間接的な知り合いが、実は、直接知っている人ってこともある。俺^{おれ}には関係ない、と思っていたら、大変なことになることもある。缶^{かん}ペンケースを落とすことは特別、悪いことじゃないけれど、間接的に、みんなに迷惑をかけている。その時に、別に自分は法律に違反^{いはん}しているわけじゃないし、と開き直すことはできる。ただ、悪いことをしちゃったな、と思う人のほうが明らかに、立派だよ。そして、その立派さが評判を作る。評判が君たちを助けてくれる」

久保先生が言葉を止めると、また、教室内が静かになる。

「という考え方もできるだろ」久保先生が愉快^{ゆかい}げに続けた。「どう？ 先生がこんな風に、たくさん喋^かったからびっくりしたかな」

はい、とても。

だけど誰も答えない。

少しして一人が手を挙げた。「先生」

「何だ、福生」

「先生、どうして急に変わったんですか」ずばり、みんなの疑問をそのまま口にした。

保護者からも少し笑いが起き、^⑤教室から重りが一つ外れた感覚になる。

久保先生は照れ臭そうに、Aを細めた。「ええと」と洩らした後、少し間があった。真実を話そうかどうか、と悩んでいたのかもしれない。

先生が変わったのは、あの、潤のお父さんと会った時がきっかけのはずだ。

雨でびしゃびしゃになった夜、あれ以降、呪いが解けたように、さっぱりとした。

あの時、福生が缶ペンケースを落とす直前、先生は紙袋かみぶくろの中から何を取り出そうとしていたのか。本当は何をするつもりだったのか。

そのことを話すのかなと思っただけで、違った。

「最初に言ったように、先生はみんなに、相手を見て態度を変えるような人になってほしくないんだ。だいたい、相手がどういう人なのかはすぐには分からないからね。相手を舐めていたら、実は、怖い人だったということもあるかもしれない。最初の印象とか、イメージで決めつけていると痛い目に遭う。だから、どんな相手だろうと、親切に、丁寧ていねいに接している人が一番いいんだよ。じゃないと、相手が自分の思っているような人でないと分かった時、困るし、気まづくなる」久保先生はまた微笑ほほえんだ。

「だから」

「だから？」

「今までは、少し頼たよりない先生のふりをしていたんだ」

嘘うそだな、と僕には分かった。そんな理由ではない。ただ、違いますよね！ とは言えなかった。

「先生が弱々しかったら、それに甘えて、言い方は悪いけれど、調子に乗る子もいるかもしれないだろ。一方で、先生がどうあれ、ちゃんとしている子はちゃんとしているだろう」

「それを見極めるために、わざと駄目だめな先生のふりをしていたんですか？」福生が不服そうに言う。「ずいぶん意地悪いぢあくじゃないですか」

「確かに」久保先生はうんうんとうなずきながらも、笑っている。「俺は結構、意地悪なんだよ」

「あ、先生」福生がさらに張り切った声を出した。

「何？」

「これまでは、世を忍ぶ^{しの}仮の姿だったということ？」

久保先生は苦笑いで、Dをかしげる。どういう意味だ？ と訊^{たず}ねている。

〔注1〕 本当は宇宙人なのに、車の姿をしていたんですか？

「全然違う」久保先生が愛想^{あいそ}なく否定したのが可笑しくて、教室内が沸^わいた。

「将太、さっきの久保先生の話、意味分かった？」授業が終わり、下校するために昇降口^{しょうこうぐち}で靴^{くつ}を履^はいていると、福生がやってきた。ランドセルがちゃんと閉まっていなから、蓋^{ふた}の部分がばかばかと音を立てている。

「よく分からなかったよ」

「僕も。評判が大事、というのは一理あるとは思っただけ」

「一理あるのかなあ」

「あれが本当の久保先生なのかな」

「本当の？」

ゲームセンター前で会った、久保先生のことを久保君と呼んだお姉さんのことを思い出した。「久保君」は小学校の先生になるのが楽しみだった、と言っていた。今日の先生には、その雰囲気^{ふんいき}があった。

〔注2〕 本当の、 オプティマスプライム」

「しつこい」

昇降口を出て、校庭を通過して、外に向かった。その時、騎士人が後ろから通り過ぎて行く。

「ああ、騎士人」と福生が呼び止めた。

「何だよ」

「もう、あれやめたほうがいいよ」

「何をだよ」

「授業の邪魔」

「してないだろ、そんなの」

「久保先生も言ってただろ。騎士人といえば、授業を邪魔するのが好きな奴、迷惑かけても平気な奴、そのイメージがもう定着しちゃうよ。口には出さないけど、心の中では、可哀想に、とみんな思っているかもしれない」

「そんなことない」騎士人のむつとした様子は普段とは違い、余裕がなかった。

久保先生の話は、僕たちよりも、頭のいい騎士人のほうが、ぴんと来たのではないか。

「そんなことより、福生、おまえはその、貧乏臭い服をどうにかしろって」

「久保先生も言っていたじゃないか。相手を見て、態度を変えるのは良くないって。外見とか服で判断して馬鹿にしてると、痛い目に遭う」

「★ないって、そんなこと」

どこからか、「そんなことって何のことだ？」と声がした。

「あ、お父さん」と騎士人の声が高くなる。

背が高く、日焼けした肌の、恰好い男の人が立っていた。堂々としているように見える。

これがあの、と僕は思った。かの有名な、騎士人のお父さんか、と。

「騎士人、悪かったな。間に合わなかったよ。急いできたんだけれど」

「いいよ別に。大した授業じゃなかったし」

そんな言い方をする騎士人を、父親は注意することもなかった。

父親が、僕たちに視線を寄せ、よこ「騎士人の友達か？」と言ってくる。

「同級生。友達じゃないよ」

騎士人が言い、僕たちはむつとし、騎士人の父親は、ふふ、と笑う。

さらにそこへ、小走りで作ってくる人がいた。スーツ姿の女性で、「ああ、福生、ごめんね」と寄ってくる。福生が恥ずかしそうに、ぼそぼそと返事をした。

「仕事、やつぱりぎりぎり。観たかっただけだなあ、授業」
うん、しようがないって。

福生は大人びた言い方をしたものの、少し幼くなったようにも見えた。

僕は、福生の母親を少し観察してしまった。薄っぺらい服ばかりを着る福生の母親がどんな服装なのか、気になったからだ。別にお母さんの服装が薄くて寒そうなんてことはなく、まあそりゃそうか、と思う。うちのお母さんは持っていないような、高そうなバッグも抱えていて、それが似合っている。きびきびして、背筋も伸びていた。

「あれ」声を発したのは、騎士人の父親だった。

何かと思えば、僕たちの近くにやってきて、「保井さんじゃないですか」と急に頭を下げはじめた。

「ああ」と答えたのは福生の母親で、やはり親しそうに挨拶をはじめた。「いつもお世話になってます」

「いやあ、こちらこそ」騎士人の父親は、先ほどまでより一段階、きりっとした態度になった。「この間は、保井さんのおかげで、本当に助かりました」

仕事の関係？ とぼんやり眺めていたところ、騎士人が少し心配そうに、「お父さんの知り合い？」と訊ねた。

「うちのクライアント、お客様だよ。いつもお世話になっているんだ。そうでしたか、同じ小学校の」

「そうだったんですね」福生の母親は穏やかにうなずいている。「世間は狭い」

へえ、などと福生は口を尖らせ、「お母さん、こっちが将太。最近、よく遊んでるんだけど」と言った。

「ありがとう。この子、いつも同じ服で、みっともないんだけど」彼女は照れ臭そうに微笑んだ。「前に、父親が買ってきてくれたものだから」と言った。

恥ずかしいのか福生は、「そういうんじゃないかって」と手を振る。

父親が買ったものだからどうだと言うのだろうか。訊くことはできず、僕はただ、彼の着る、洗い過ぎて薄くなった、ロゴも消えかけのTシャツを眺めた。

⑥「まさか保井さんのお子さんと、うちの同級生とは。おい、仲良くやってるんだろ？」騎士人の父親は少し強い言い方をした。

「お友達なのね？」母親が、福生に訊ねた。

すると福生は少し笑い、まさにオプティマスプライムの台詞「私にいい考えがある」を口にしようとした顔つきになった。

騎士人は、父親を気にしながらも、福生を見ていた。頼むぞ、と念じてくるのが分かった。

福生はにやけたまま、答えるために、すうつと息を吸った。

(伊坂幸太郎「非オプティマス」「逆ソクラテス」より)

(注1) 本当は宇宙人なのに、車の姿をしていたんですか。福生は「宇宙から地球に来たロボット生命体が活躍する映画」が好きなのだが、その映画のロボット生命体は普段は車などに変形している。

(注2) オプティマスプライム。注1の映画に登場するロボット生命体の総司令官。

問1 本文中の空らん

A

く

D

にあてはまる語として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。同じ記号は一度しか使えません。ただし、空らん A、 B は本文中に二箇所ずつありますが、同じ記号の空らんには同じ語が入りません。

ア 目 イ 耳 ウ 歯 エ 首 オ 手 カ 足

問2 — 線部①「ただ、先生はそれじゃあ、ちゃんと解決はしないと思っているんだ」とありますが、先生はどのようにして解決しないと思っているのですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手を痛い目に遭わせて従わせても、相手がそのことを根に持ってあとで仕返しをされることがあるから。

イ 力で相手を服従させることは、相手に対する思いやりがない行為なのでよくないと考えているから。

ウ がつんと指導したら一時的に改善するかもしれないが、その後の子供達との人間関係が悪くなると考えているから。

エ 暴力をつかって相手に言うことを聞かせようとしても、相手によってはそれが通用しないことがあるから。

問3 — 線部②「僕は少しどきどきしはじめていた」とありますが、この時の「僕」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 先生がいつもの調子でわけの分からない話を始めたため、これではまたふざける子がでてくるとはらはらして気が気ではない。

イ 先生がはっきりしない内容ではあるが、通常とは異なる様子で話を始めたため、これから何が起こるのか予測が付かず、緊張きんちようしてきている。

ウ 先生がきびしい様子でみんなを戒める話を始めたため、そのきびしい指導に反発した子が反抗はんこうするのではないかと恐れている。

エ 先生が曖昧あいまいな態度で極端きょくたんな話をし続けているため、その話の内容をどのように受け取ったらいいか判断しきれずに混乱こんらんしている。

問4 — 線部③「いつもの教室だけれどいつもの教室ではない」とありますが、これはどういうことですか。その説明として

最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日頃通^{ひごろ}っていてなじみのある教室であるはずだが、先生が不思議なことをいって秩序^{ちつじょ}をかき乱したために、まるで初めて来たようなよそよそしさを感じる教室に変わってしまったということ。

イ 毎日の授業が行われる、通い慣れた教室であるが、先生が今まで聞いたこともない内容の話をいつもと違^{ちが}って勢いよくさかんに喋^{しゃべ}るため、普段^{ふだん}とは違う雰囲気^{ふんいき}の教室になっているということ。

ウ 普段の授業のように、缶^{かん}ペンを落として邪魔^{じゃま}をする生徒がいるが、先生の話を受けてみんなが悪いことをしたと反省したため、同じ授業とは思えないほど鎮^{しず}まってきたということ。

エ 授業自体は通常と変わらずに行われているものの、保護者の見ている前で先生が生徒に言い返すのは初めてだったため、普段の教室には感じられない緊張感がある授業に変わっているということ。

問5 — 線部④「内容自体は意地悪なものだ」とありますが、なぜ「意地悪」であるといえるのですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まわりに迷惑をかけて面白がるような人はこのクラスにはいないが、もしそのような人がいたら、その人は可哀想な人だという先生の朗らかな口調の言葉は、騒ぎを起こしている騎士人やそれに同調している子をそれとなく責めて、つきはなそうとする言葉でもあるから。

イ 迷惑をかけて面白がる人は、自分たちだけで楽しむ方法が思いつかない可哀想な人間であり、その習性はなにをしても変えられないので、そのような人とは関係を持たないようにしなさいと先生は言っているが、それはその人とのつきあいを拒絶することになるから。

ウ 迷惑をかける人、仲間はずれになった経験がないので調子に乗ってさらに度を超してしまっけれども、そのような人は必ず痛い目に遭うときがくるので、そのまま無視しておくようにという先生の言葉は、教育者としてはあまりに冷たい言葉だから。

エ 悪いことをする迷惑な人は、自分たちが迷惑をかけている自覚がなく注意されても反省はしないので、そのような人に無理に注意をしても意味はないと先生はあきらめているが、それは迷惑をかけられた被害者に対する配慮を欠いてしまっているから。

問6 — 線部⑤「教室から重りが一つ外れた感覚になる」とありますが、この「重り」がある状態とはどのような状態のことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 先生がどうしていつもと違って急にお喋りになったかを誰も聞き出せない気まずい状態。
- イ 先生が回りくどい言い方で長々と説教を続けることに、みんながうんざりしている状態。
- ウ 授業の邪魔をすることに対する先生の話に、みんなが重苦しい気持ちになっている状態。
- エ 先生が保護者に授業のことを批判されて言い訳する事態に、みんなが緊張している状態。

問7 — 線部⑥「まさか保井さんのお子さんと、うちのが同級生とは。おい、仲良くやってるんだろ？」とありますが、この

ときの騎士人の父親の説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 騎士人が福生ふくおに対して意地悪いぢあくをしていることを知っていたながら放置していたが、福生の母が仕事の取引相手だと分かったため、このままでは仕事に悪い影響えいきやうが出てしまうと思い、福生へ謝罪するように促うながしている。

イ 騎士人と福生が友達であるかどうかは関心がなかったが、福生が仕事の取引相手の子供であることが分かったため、息子むすこを通して福生とも親密な関係を築こうとして話のきっかけを作ろうとしている。

ウ 騎士人が誰と友達なのかはそれまでは気にしていなかったが、仕事の取引相手である福生の母と思いがけなく出会ったため、よい父親を演じて保護者として息子のことをよく分かっていることを福生の母に印象づけようとしている。

エ 騎士人と福生が仲のよい友達かどうかはそれまではあまり気にしていなかったが、福生の母が仕事の取引相手と分かったとたん、親の立場から仕事上の立場に変わり、息子の友達関係が気になりだして、息子にその関係を問いただそうとしている。

問8 — 線部★「ないって、そんなこと」とありますが、このように言っていた騎士人はこの後、どのようなことになります

か。それを説明した次の文の空らん I、II に当てはまる内容を考えて答えなさい。ただし、I は

十字以内、II は三十字以上四十字以内とし、句読点くとうてんなどの記号も字数にふくめます。

騎士人は、福生を外見から判断して I が、意外にも福生が父親の仕事の取引相手の子供であることが分かったことで立場が逆転し、II 状況じょうきょうに追い込まれることになる。

(おわり)

国語解答用紙

教室番号

座席番号

受験番号

氏名

(注意) ※のらんには何も書かないこと

一

⑨	⑤	①
⑦		③
⑧		④
⑩		②

二

問 2
問 1
A
B
C

三

問 3		
40		
30		

問 7	問 4
問 8	問 5
問 6	

問 5	問 2
問 6	問 3
問 7	問 4

問 8			
II		I	
40			
30			

※

※

※

※

※

※
